

1. 会議名	令和5年度 第2回出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議
2. 開催日時	令和6年(2024)2月6日(火) 17:55~19:15
3. 開催場所	出雲市役所本庁3階 大会議室
4. 出席者	<p>《委員》</p> <p>【出席】 山岡 尚会長、山岡 忍副会長、安部 宏委員、陰山 篤也委員、児玉 俊雄委員、 角 健二委員、須田 のり子、壺倉 浩平委員、長島 憲人委員、槇原 綾子委員、 松浦 研二委員、三島 慎也委員</p> <p>【欠席】 加本 るい委員、坂根 俊委員、須山 賢也委員、田中 由美子委員、長瀬 理更委員、 原 久子委員、兵井 早苗委員、保科 孝充委員</p> <p>《事務局》 商工振興課長、商工振興課職員(3名)、産業政策課職員(1名)</p>
5. 次第	1. 開会 2. 議題 (1) 会長・副会長の選出 (2) 令和5年度の商工関係施策について (3) 令和6年度予算編成過程について 3. 閉会

6. 会議内容（概略） ※敬称略

- 事務局
- ・本日は、ご多用の中をお集まりいただき感謝申しあげる。
 - ・ただいまから、令和5年度 第2回出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議を開会する。
 - ・改選に伴う委員の交代があった。

【退任】

- ・有限会社みしま 三島善子 委員
- ・有限会社コクヨー 原八重子 委員
- ・株式会社來間屋生姜糖本舗 來間久 委員
- ・神門三千夫税理士事務所 渡部由美 委員
- ・邇摩高等学校 中澤雅美 委員

【新任】

- ・有限会社 須田工作所 須田のり子 委員
- ・有限会社 兵井鉄工 兵井早苗 委員

以上の皆様に新たに会議の委員を委嘱している。

- ・本日は、20名の委員のうち8名が欠席のため、12名で会議を開催する。

《議題1：会長・副会長の選出について》（18：00～18：03）

事務局 委員の改選に伴い、会長・副会長を選出する必要がある。前期に引き続き、会長として出雲商工会議所 山岡尚委員、副会長として平田商工会議所 山岡忍委員を選出する形でよいか。

委員 異議なし。

事務局 異議なしであるため、引き続き会長・副会長を務めていただく。以降の進行は会長に任せる。

《議題2：令和5年度の商工関係施策について》（19：35～19：50）

委員 出雲市中小・小規模企業状況調査について、事務局に説明をお願いする。

事務局 [資料1、資料2に基づいて説明]

委員 ただいまの説明を受けて、何か質問等があるか。

委員 農業者への支援も対象とした出雲市中小企業者等デジタル化・省力化等促進支援事業補助金（以下「デジタル化補助金」）について、有機栽培に用いられるアイガモロボットというものがあるが、出雲市新出雲農業チャレンジ事業費補助金（以下「チャレンジ補助金」）においては補助対象となっていない。デジタル化補助金はチャレンジ補助金とはすみわけがされているものと考えるが、アイガモロボットは補助対象となるのか。併せて、ミライビジネスいずもについて、21世紀産業支援センターは会員数が140社・団体程度あったと記憶しているが、斐川と合併をしたことで会員数にどのような変化があったか。以上2点について伺いたい。

事務局 アイガモロボットについて、チラシに明記はしていないが、チャレンジ補助金で対応する機器は除くと考えているので、チャレンジ補助金で対応しなければデジタル化補助金の対象となる可能性もある。ミライビジネスいずもの会員数については、現時点では136社・団体であり、200社・団体を目指して会員数の増を目指していく。

委員 会員数については、21世紀産業支援センターが140社・団体程度、ビジネスサポートひかわが70社・団体程度であり、合算すると200社・団体を超えるが、両方に会員登録している場合もあったため、実際の総数は現在と大きくは変わらないと思われる。コロナ禍の影響で退会される事業者もあったが、それ以上に各地域で増加傾向である。年度単位での会費徴収となるので、

年度が変わるタイミングでまた増えるのではないかとと思われる。

委員 合併により会員数が大きく減少することが懸念されたため安心した。アイガモロボットについては以前から議会などでもチャレンジ補助金の対象とすることを希望していた。チャレンジ補助金かデジタル化補助金のいずれかでは対象としてもらいたい。

事務局 チャレンジ補助金の主管課である農業振興課と調整を行う。

《議題3：令和6年度予算編成過程について》

事務局 [資料3に基づいて説明]

委員 ただいまの説明を受けて、何か質問等があるか。

委員 資料を見ると一部事業で予算額がマイナスになっているものが見受けられる。予算額だけを見ると、中小企業振興に係る市の意欲が減少しているようにも考えられるがいかがか。

事務局 現時点で来年度事業の詳細まで申し上げることができないため、詳細については次回会議にて説明をさせていただきたい。事業の中には予算額が減っているものがあるが来年度に向けて新規施策も考えているのでそれらについても次回会議にて詳細を説明させていただきたい。

委員 今回振興会議が開かれたのが久しぶりになるが、先ほどの今年度事業説明の趣旨は、現時点の経過報告なのか、今後実施する内容の説明なのか。

事務局 今年度の現時点の経過報告を趣旨として説明をしているが、本来であれば、早い段階で説明をするべきところではあった。来年度の予算については詳細を現時点で説明することができないが、Izumomad の開設をはじめとする IT 企業支援など、今年度実施した事業についての報告をしている。

委員 7月の委員改選後、初めて会議に参加される委員もいるので、市の予算説明に終始せず、それが実施できているかどうかについて重きを置いてこの会議では議論をすべきではないか。今年度どのような事業を実施したか、実績があったかを重点的に説明してもらえればこの時期に開催する意義が深まるのではないか。次回会議は来年度予算が決まったところで開催されるのか。

事務局 次回会議の開催時期はまだ決まっていないが、年度末には来年度予算が決定し、事業内容についてより詳細な説明ができるようになる。今年度末に次年度予算の説明を趣旨として会議を開催し、年度をまたいだところで、振興計画の目標数値などの進捗確認を趣旨とした会議の開催を予定している。

委員 創業・事業承継に係る事業の予算が減少しているが、中小企業振興において力を入れる点であると考えられるので後退しないように取り組んでいただきたい。

事務局 創業・事業承継については、ミライビジネスに委託する分野にも予算を計上し、創業塾、創業実践塾の開催などを行っている。来年度も引き続きこれらの取り組みは継続していきたい。

委員 地場企業支援事業について、来年度予算が増額となっているが、どのような点に力を入れているのか。また、デジタル通貨に係る予算について、来年度はどのようなことを実施するのか。

事務局 地場企業支援事業については、年度をまたいでデジタル化支援補助金を実施するため、予算額が増加している。デジタル通貨に係る予算については、デジタル通貨の導入にあたり市としてどのようなことを実施することができるかを調査する経費等として考えている。

委員 前回会議でも話に上がったが、デジタル通貨の導入についてはどのようなシステムを取り入れるかが重要になってくるとと思われる。政策企画課が主管として事業を進める場合においても、振興会議で委員の意見を吸い上げて事業に反映させるような形をとってほしい。

委員	今朝の新聞に斐川地区に新しい工業団地ができるという記事が掲載されていたが、現在、企業が直面している課題は人材不足であると考えられる。以前は取り組まれていた在籍型の出向も現在はなくなっている。先ほど IT 企業への支援などを市では取り組んでいると説明があったが、地場企業への支援もより必要であると考えられる。地場企業の人材不足に対して市はどのような施策を考えているか。
事務局	在籍型出向等については、閑散期の人材交流なども含めて、市として取り組める内容がないかを検討している。人材確保対策について、次年度予算額は今年度と比べて増額としており、雇用推進協議会や外国人の就労について新規の取り組みを考えている。予算決定後、情報を発信していく。
委員	工場の新設などが続いているが、出雲市内の労働力はすでに不足しており、高い賃金を払うところに労働者は流れていく傾向がある。地場中小企業においては賃上げの必要性にも直面しており、工場など大企業の進出に伴い不足する労働力をさらに取り合うような形になっている。道路網が整備されれば雲南市や奥出雲町等の市外から労働力を確保することもできると思われるが、民間企業の進出に比べて、それらのインフラ環境づくりや定住者増加のペースが遅いと感じる。そういった環境整備が間に合わないで地場企業の求めるさらに労働力が取られていくのではないか。本会議の委員はそういった地場企業の声を聴くことができる立場であるため、そういった立場の者が集まる振興会議においては市からのメッセージをしっかりと発信してもらいたい。昨年度から委員の出席率も低い現状があり、この振興会議という場を出席する意義のある場にしていただきたい。
事務局	いただいた意見については商工振興部のみではなく、市内で広く共有していく必要があると考えている。労働力については出雲市のみならず他地域でも対応方法が問われている。この振興会議の場においても市の施策についてメッセージを伝えることができるようにしたい。
委員	事務局の説明の補足になるが、本日の会議については、元々10月ごろの開催を予定しており、来年度予算要求をする前の段階で委員の皆様に来年度に実施する事業について意見を聞くことを想定していた。次年度以降はスケジュール管理を見直したい。また、振興計画には目標数値を設定しているので、年度初めの段階で振興会議の場において進捗管理を行っていききたい。予算が決定する前ということもあり今回の会議では事務局側から慎重な回答が多かったが、もう少し明確な回答があってもよかったと思う。現在コロナ禍が収まりつつあり、地場企業の方々は人材不足に直面している。労働力については全国、あるいは世界中での取り合いになる中で出雲市の労働力人口を向上させることが市のやるべきことであると考えている。一例として雇用推進協議会実施している合同企業説明会の早期開催や、学生地元就職のために実施しているいずれも学生登録を高校1年生までを対象を広げる等、現在実施している事業の拡充や、外国人住民を対象としたメンター制度の新設などで、外国人住民と雇用者へのフォローアップ体制の構築に取り組んでいきたい。併せて、労働力の総数には限りがあるという事実を踏まえ、各事業者に向けたデジタル化、省人省力化を推進していく必要があると考えている。今回の会議においても意見のあった創業・事業承継についても、個別相談体制の拡充も進めていきたい。
委員	現在の振興計画策定において、コロナ禍であったこともあり事業継続を優先し、計画の目玉となる事業がなかったが、コロナが収まった現在人材不足は明らかであり、この局面をどのように生き残っていくかという点において、計画の見直しなども含めて市からのメッセージを示すべきだと考えられる。

事務局	地場企業を取り巻く状況は変わってきており、来年度に振興計画の見直しを考えている。計画の見直しにあたっては委員の皆様から意見を伺ったうえで見直しを行いたい。
委員	以上で本日予定されていた議題等の審議は終了となる。進行を事務局にお返すする。
事務局	次回会議については、実施時期など事務局で検討の上、改めて案内を発出する。 以上をもって、令和5年度 第2回出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議を閉会する。